

# 直近の国の調査より

# ひきこもり70万人

## 予備軍も155万人

### 3大要因 「職場」「病気」「就活」

家や自室に閉じこもって外に出ない若者の「ひきこもり」が全国で70万人に上ると推計されることが、内閣府が23日に発表した初めての全国実態調査の結果から分かった。将来ひきこもりになる可能性のある「ひきこもり親和群」も155万人と推計しており、「今後さらに増える可能性がある」と分析している。

### 内閣府推計

調査は2月18～28日、全国の15～39歳の男女5000人を対象に行われ、3287人(65.7%)から回答を得た。

「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」状態が6か月以上続いている人をひきこもり群と定義。「家や自室に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちに分かる」「自分も家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」「嫌な出来事がある」と、外に出たくなくなる」「理由があるなら家や自室に閉

### 増加に危機感 「定義」広げる

今回の調査は社会的自立の度合いに着目し、「趣味に関する用事の時だけ外出(推計46万人)」とした人もひきこもりに分類した。これを除く「狭義のひきこもり(同24万人)」が、厚生労働省が5月に公表した「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」の26万世帯(推計)に相当するとしている。定義を広くとったのは、今後さらに増えるとの危機感からだ。

調査の企画分析委員の座長を務めた高塚雄介明星大教授(心理学)は「『ひきこもり親和群』は若者が多い。そうした若者が社会に出て、辛うじて維持してきた友人関係が希薄になったり、新しい環境に適応できなかつたりして、『ひきこもり群』がじわじわ増える」と警鐘を鳴らす。

内閣府は調査にあわせ、自治体や学校への支援の手引書をまとめた。家庭、学校、地域社会が、人ごとでないとの意識で連携する必要があると述べた。(政治部 青木佐知子)

ひきこもりになったきっかけ

職場になじめなかった	23.7%
病気	23.7
就職活動がうまくいかなかった	20.3
不登校(小学校・中学校・高校)	11.9
人間関係がうまくいかなかった	11.9
大学になじめなかった	6.8
受験に失敗した(高校・大学)	1.7

(内閣府調べ、複数回答)

## 熱中症死者52人

### 猛暑1週間 搬送は5900人に

全国的な猛暑が続く中、17日からの1週間で、熱中症とみられる死者が16府県で少なくとも52人にとり、都府県で5896人となり、気象庁は注意を呼びかけている。

全国的な猛暑が続く中、18日だったことが県警のまとめで判明。持病に加えて暑さが原因で死亡したとみられる人も13人の上った。ただ、他の都道府県の死者数は0～3人で、自治体

## 欧州7行資本不足 特別検査

【ロンドン＝星枝智】欧州連合(EU)27か国の金融当局でつくる欧州銀行監督委員会が23日夜、域内の主要91銀行の財務内容を調べたストレステスト(特別検査)の結果を発表した。増資が難しい場合は各国が公的資金を注入する。財務悪化が懸念されたドイツの州立銀行7行のほか、英独仏などのメガバンクは「問題なし」とされた。ギリシャ国立銀行は4.5億(約504億円)、スロベニアのノバ・リュブリヤンスカ銀行は4億の自力増資を発表した。

↑関連記事9面

## 山口調査委員を解任

### 相模協会 貴乃花親方は「シロ」

5月の大相撲夏場所の維持費で指定努力団住吉会系努力団組長が親戦しい「早大特命教授」を開き、この問題に関するしていたボク

山口調査委員を解任

知県警が暴力団と関係があるとして、あるとみている建築請負会社から境川親方(元小結両国)が宿舍の土地を購入した問題は、継続調査となった。

↑関連記事37面

め、10歳代の割合が31%と高かった。

ひきこもりとなったきっかけは、「職場になじめなかった」と「病気」がともに24%で最も多く、「就職活動がうまくいかなかった」が20%で続いた。

0万人であることから、ひきこもり群は70万人、親和群は155万人と推計した。

ひきこもり群は男性が66%と多く、年齢別では30歳代が46%を占めた。一方、親和群は女性が63%を占

によって集計方法が異なるため、実際の死者はさらに増えるとみられる。

23日は、最高気温が35度を超える「猛暑日」が全国で140地点に上り、群馬県館林市など3市で38.9度を記録。愛知や三重などで6人が亡くなった。

↑関連記事9・35面

「土用」を英語で「下

# 若者の意識に関する調査(ひきこもり調査) 骨子

標本数 5,000人(全国15歳以上39歳以下の者)  
有効回収数(率) 3,287人(65.7%)

## ひきこもり群の推計数

	有効回収率に占める割合(%)	全国の推計数(万人) (注1)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	1.19	46.0	準ひきこもり 46.0万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3	
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5	狭義のひきこもり 23.6万人 (注2)
自室からほとんど出ない	0.12	4.7	
計	1.79	69.6	広義のひきこもり 69.6万人

ただし ア)現在の状態となって6ヶ月以上の者のみ  
イ)「現在の状態のきっかけ」で、「病気(病名: )」に統合失調症又は身体的な病気、又は「その他( )」に自宅で仕事をしていると回答した者 を除く  
ウ)「ふだん自宅にいるときによくしていること」で、「家事・育児をする」と回答した者 を除く

(注1)総務省「人口推計」(2009年)によると、15~39歳人口は3,880万人より、有効回収率に占める割合(%)×3,880万人=全国の推計数(万人)  
(注2)厚生労働省の新ガイドラインにおけるひきこもりの推計値は25.5万世帯となっており、ほぼ一致する。

## ひきこもり親和群の推計数

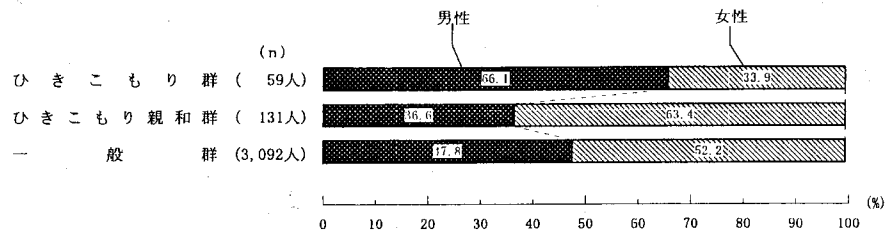
Q27-11~14の4項目が、①4つとも「はい」と答えた者、及び②3つは「はい」で1つのみ「どちらか」といえば「はい」と答えた者の合計から「ひきこもり群」を除いた者を「ひきこもり親和群」と定義。

11. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
12. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
13. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
14. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う  
(1.はい 2.どちらかといえばはい 3.どちらかといえはい 4.いいえ)

ひきこもり親和群の有効回収率に占める割合は、3.99%  
ひきこもり親和群の推計数は、155万人

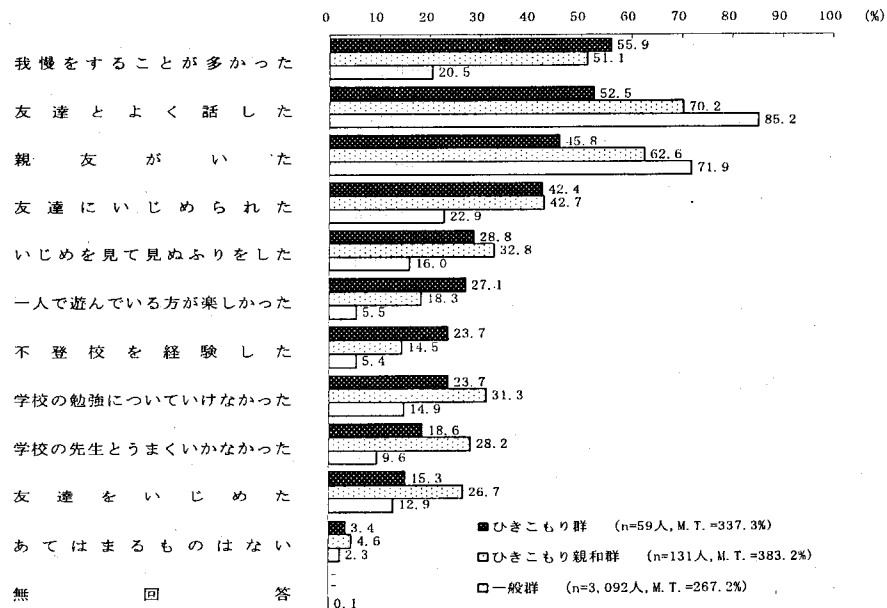
## 性別(Q1)

ひきこもり群は男性が多く、ひきこもり親和群は女性が多い傾向



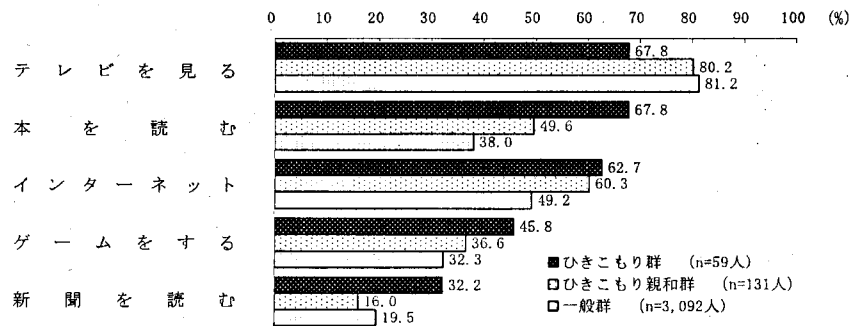
## 小中学校時代の経験(Q11)

ひきこもり群やひきこもり親和群は学校生活が必ずしもうまくいかなかった様子がうかがえる



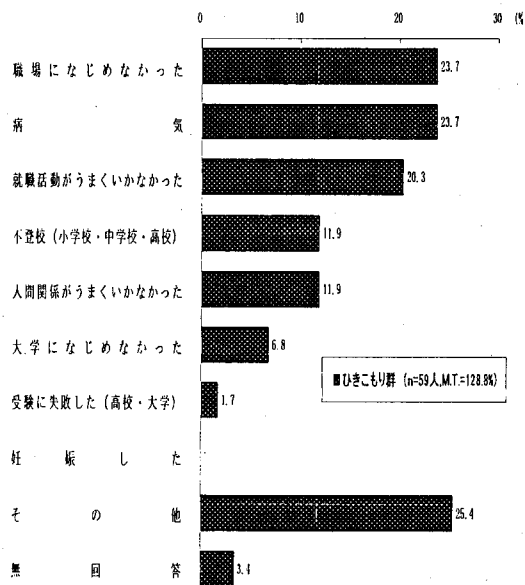
### ふだん自宅でよくしていること(Q18)

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比べて「本を読む」や「インターネット」が多い



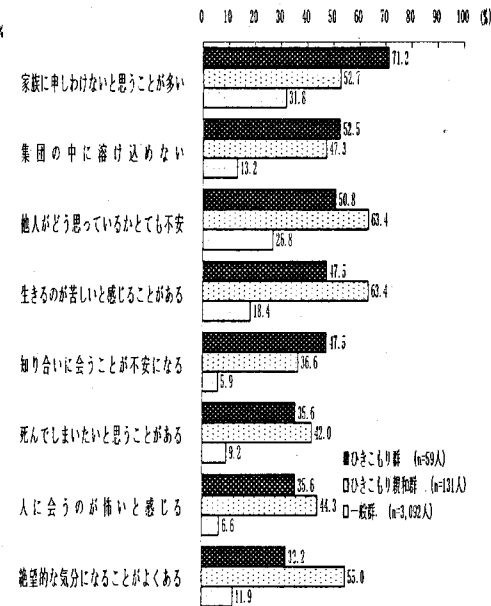
### きっかけ別(Q23)

仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多く、学校に関するきっかけの者は少ない



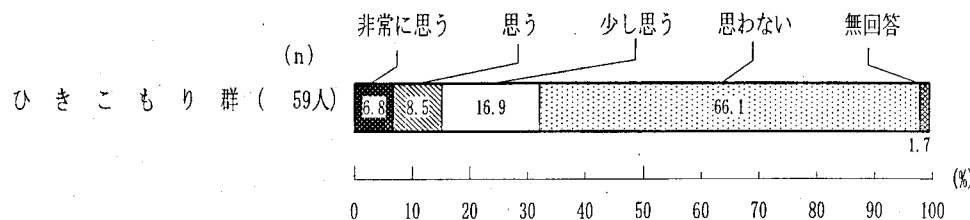
### 不安要素(Q28)

ひきこもり群と親和群は、一般群と比較して、様々な不安要素をかかえている



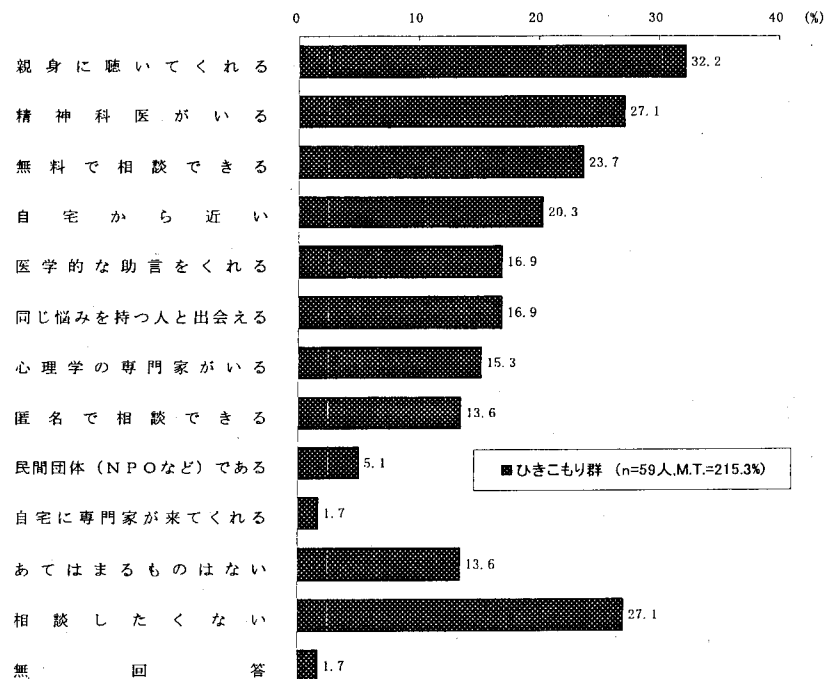
### 現在の状態について関係機関に相談したいか(Q24)

現在の状態について関係機関に相談したいと「思わない」者が、7割近く



### どのような機関に相談したいか(Q25)

現在の状態をどのような機関なら相談したいか聞いたところ、①「親身に聴いてくれる」32.2%、②「精神科医がいる」が27.1%、③「無料で相談できる」23.7%、などの順



●新宿区の15歳から39歳の人口

107,390人

(平成22年7月1日現在・外国人登録人口は除く)

●国の調査における有効回収率

広義のひきこもり 1.79%

●新宿区における推計数

広義のひきこもり

$107,390 \times 1.79$

$= 1,922$ 人